

知床世界自然遺産地域

第2期・長期モニタリング計画（案）

環境省釧路自然環境事務所、林野庁北海道森林管理局、北海道

【計画期間】2022年4月から2032年3月まで

1. 評価の枠組み及び評価項目一覧

評価の対象	評価の観点		仮 No.	評価項目	参考 ※
保全状況 (状態)	世界自然遺産として登録された基準（クライテリア）である知床の生態系及び生物多様性が維持されているか		A	特異な生態系の生産性が維持されているか (クライテリア (ix) 生態系)	Iと同様
			B	海洋生態系と陸上生態系の相互関係が維持されているか (クライテリア (ix) 生態系)	IIと同様
			C	遺産登録時の生物多様性が維持されているか (クライテリア (x) 生物多様性)	IIIと同様
環境圧力 ・観光圧力 (状態、動向)	知床の世界自然遺産としての価値と関係性があると考えられる要因による影響はみられるか		D	遺産地域における気候変動の兆候はみられるか	VIIIを分離
			E	知床の世界自然遺産としての価値に対する気候変動の影響もしくは影響の予兆はみられるか	VIIIを分離
			F	知床の世界自然遺産としての価値に対するレクリエーション利用等の人為的活動による影響もしくは影響の予兆はみられるか	VIIを改変
管理/対策	管理の実施状況 (実績)	知床世界自然遺産管理計画に基づく管理ができてきているか	G	観光（やレクリエーション）などの人による利用と自然環境保全が両立されているか。また、人の利用による環境影響を可能な限り低減するための管理努力が行われているか	VIIを改変
			H	ユネスコ世界遺産センター及びIUCNによる現地調査に基づく勧告への対応は進んでいるか (それぞれの勧告に対する対応の進捗状況は順調か)	新規
	対策による効果 (動向)		I	遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続可能な水産資源利用による安定的な漁業が両立されているか	IVと同様
			J	河川工作物による影響が軽減される等により、サケ科魚類の再生産が可能な河川生態系が維持・回復しているか	Vと同様
			K	エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないか	VIと同様

※現行（第1期）計画の評価項目 No. との関係を示す

2. 長期モニタリング項目一覧

朱書きは現行計画からの変更箇所

(1) 主に関係行政機関で実施するモニタリング項目

No.	モニタリング項目	実施主体	対応する評価項目 No.
1	衛星リモートセンシングによる水温・クロロフィルaの観測	検討中	
2	海洋観測ブイによる水温の定点観測	環境省	A、D、I
3	アザラシ・トドの生息状況の調査	北海道	A、C、E、I
4	海域の生物相、及び、生息状況（浅海域定期調査）	環境省	A、B、C
5	浅海域における貝類定量調査	環境省	A、B
6	ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査	環境省	B、C、F、I
7	エゾシカ個体数調整実施地区における植生変化の把握（森林植生/草原植生）	環境省、林野庁	K
8	知床半島全域における植生の推移の把握（森林植生/海岸植生/高山植生）	環境省、林野庁	C、E、K
9	希少植物（シレットコスミレ）の生育・分布状況の把握	環境省	C、E
10	エゾシカ主要越冬地における生息状況の把握（航空カウント/地上カウント）	環境省ほか	K
11	陸上無脊椎動物（主に昆虫）の生息状況の把握	環境省	C、K
12	陸生鳥類生息状況の把握	環境省	C、K
13	中小型哺乳類の生息状況調査（外来種侵入状況調査含む）	環境省、林野庁	C
14	広域植生図の作成	環境省、林野庁	C、E
15	ヒグマによる人為的活動への被害状況	環境省ほか	F
16	知床半島のヒグマ個体群	関係機関	B、C
17	河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所・産卵床数及び稚魚降下数のモニタリング	林野庁、北海道	B、I、J
18	淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況（外来種侵入状況調査含む）	林野庁	C、D、E、J
19	適正利用に向けた管理と取組	環境省ほか	D、G
20	適正な利用・エコツーリズムの推進	環境省ほか	F、G
21	利用者数の変化	関係行政機関、事業者等	F、G
22	海ワシ類の越冬個体数の調査	環境省	B
23	シマフクロウのつがい数、標識幼鳥数、死亡・傷病個体と原因調査	環境省	C
24	年次報告書作成による事業実施状況の把握	環境省ほか	C、G、H
25	年次報告書作成等による社会環境の把握	環境省ほか	C、F、G、H
26	気象観測	環境省ほか	D
新	登山者による高山植生への影響調査	環境省	F

(2) 地元自治体、関係団体、専門家、その他の行政機関等に協力を依頼するモニタリング項目

No.	モニタリング項目	実施主体	対応する評価項目 No.
①	航空機、人工衛星等による海水分布状況観測	第一管区海上保安部	A、D、I
②	アイスアルジーの生物学的調査	東海大学、北海道大学	
③	「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握	北海道水産林務部	A、C、E、I
④	スケトウダラの資源状態の把握と評価（TAC設定に係る調査）	水産庁	A、I
⑤	スケトウダラ産卵量調査	羅臼漁業協同組合、釧路水産試験場	A、I
⑥	トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性	北海道区水産研究所等	A、E、I
⑦	アザラシ・トドの被害実態調査	北海道	I
⑧	オジロワシ営巣地における繁殖の成否、及び、巣立ち幼鳥数のモニタリング	オジロワシモニタリング調査グループ	B、C
⑨	全道での海ワシ類の越冬個体数の調査	合同調査グループ	B
⑩	海水中の石油、カドミウム、水銀などの分析	海上保安庁海洋情報部	I
⑪	シャチの生息状況の調査	Uni-HORP (北海道シャチ研究大学連合)	A、C、E、I